

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成30年6月15日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：大熊長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めます。

○大熊総務課長 それでは、ブリーフィングを始めさせていただきます。

本日は、私から2件御報告がございます。

まず、1件目といたしまして、日程につきまして、お手元の広報日程に基づいて御説明をさせていただきます。

1ページ目、2. (1)、6月18日月曜日でございますが、第2回の訓練シナリオ開発ワーキンググループの開催を予定しております。こちらは事業者防災訓練の改善を進めていくために、シナリオなどにつきまして事業者と一緒に議論をしていると、こういう会合でございます。訓練シナリオなどの内容を含みますため、非公開で開催をさせていただきます。

内容といたしましては、議題として記載のとおり、2件予定されております。

まず、議題1といたしまして、平成29年度の試行訓練の結果についてということで、3月に行われました訓練の結果の取りまとめについて議論を行う予定でございます。

その次に、議題2といたしまして、平成30年度の訓練の実施方針について検討が行われるという予定でございます。

次に、その下、6月19日火曜日、(2)の審査会合についてでございます。こちらの審査会合では議題として2件の審査が予定されております。

まず、1件目といたしまして、東北電力・女川原子力発電所2号炉につきまして、津波対策、具体的には防潮堤の構造成立性につきまして、前回に続き説明を聴取して審査を行うという予定でございます。

次に、2件目といたしまして、関西電力・高浜発電所1号炉及び2号炉につきまして、設置変更許可に係る審査といたしまして、SFP（使用済燃料ピット）でございますが、こちらの未臨界性の評価につきまして、前回の審査を踏まえたコメント回答を予定しております。

次に、その下、(3)第30回廃炉等に伴う放射性廃棄物の規制に関する検討チームの開催が同日6月19日の午後に予定されております。こちらの会合では、先般、5月30日の原子力規制委員会において行われた議論を報告しまして、さらに検討を進めていただくと

いうことを予定してございます。先般、5月30日の原子力規制委員会におきまして、100マイクロシーベルトという数値の位置づけの明確化等について審議がなされたところでございまして、その結果を報告するというところでございます。

次に、2ページ目、6月20日水曜日、(6)第32回の技術情報検討会の開催を予定しております。この検討会は、国内外の事故・トラブルの情報、また、最新の科学的・技術的知見を規制に反映させる必要性につきまして整理を行い、認識を共有するというものを目的にして開催してきているものでございます。先般、5月23日の原子力規制委員会において検討の状況を報告した際に、今後、公開で開催していくという方向を報告したところでございます。その方向に従って、今回の会合から公開で開催することとしているというものでございます。

議題としては、記載のとおり5件が議題として立てられておりますが、まず、議題1といたしまして「技術情報検討会について」とありますが、先般の原子力規制委員会での報告、また、議論を確認するというところから始めまして、議題2において国内外の事故・トラブル等の情報、また、議題3として安全研究及び学術的な調査・研究から得られる知見、また、議題4として審査結果から得られる知見、こういった様々なソースからの知見について、それぞれ調査状況・検討状況等を共有し、また、議題5としまして、これまでのそうした知見を踏まえた基準や制度への反映への取り組みの状況について、共有し確認をすると、こういったことが予定されているところでございます。

次に、その下、6月21日木曜日、(7)第2回の原子力発電所における配管支持間隔の設定方法に関する会合が予定されています。こちらは配管の耐震性の評価につきまして事業者と議論を行っている、公開で議論を行っている場でございます。先般行われた第1回の会合での議論を踏まえまして、今回は当方、原子力規制庁の側から論点を示して議論を行うということを予定しているところでございます。

次に、その下、6月22日金曜日、(8)の審査会合についてでございます。こちらは特定重大事故等対処施設に係る審査となりますので、非公開にて開催させていただきます。議題といたしましては、記載のとおり、九州電力・玄海発電所3号炉及び4号炉の特重施設に係る審査のうち、地震に係る審査を予定してございます。

次に、3ページ目、(10)、こちらも6月22日金曜日の会合でございます。141回の放射線審議会総会の開催が予定されております。議題は、記載のとおり5件予定されております。

まず、議題1といたしまして、会長の選任及び会長代理の指名が行われる予定です。先般、4月に任期を迎えた委員についての任命がございまして、その後の初回の会合になりますので、会長の選任が行われるということでありませう。

次、議題2は、医療放射線の適正管理に関する検討会における検討状況ということで、こちらは厚生労働省における検討状況について、報告をお聞きする予定でございます。

次に、議題3、ICRP2007年勧告の国内制度等への取り入れの進め方についてということ

で、こちらはこれまでの議論してきているテーマでございますが、それに引き続き、ICRP勧告の国内制度への取り入れについて、さらに調査を進めていくべき事項というものが示されていたところですが、それらの事項についての調査の進め方について議論が行われる予定でございます。

また、議題4は、東電福島第一原発事故に関連して策定された放射線防護の基準のフォローアップということで、こちらにも議論が既に開始をされている事項についての継続的な検討でございますが、これまで関連する基準について、全体の状況の整理を行い、特に食品に関する基準、また、空間線量率と実効線量の関係、この2点についてさらに調査を進めていくということとなっておりますので、これらについて、事務局において情報収集・整理等を行った状況の報告を行うということを予定してございます。

最後に、議題5として、ICRPの最近の活動状況について、こちらはICRPに参加されている委員から御報告をいただくという予定でございます。

次に、その下、3. 委員の現地調査の予定が2件新しく入ってございます。

まず、(1)でございます。6月21日木曜日に、東海第二発電所の設備に関する機能確認試験の現地調査ということで、山中委員が防災科学技術研究所・兵庫耐震工学研究センターに現地調査に行くという予定としております。こちらは東海第二発電所のブローアウトパネル閉止装置の機能確認試験につきまして、新規制基準の適合性審査の観点から現地調査を行うというものでございます。

次に、(2) 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 新型転換炉原型炉ふげん及び高速増殖原型炉もんじゅの現地調査ということで、6月22日金曜日に、田中委員ほかは今申し上げました、ふげんともんじゅの現地調査を行うという予定としております。こちらは、ふげん及びもんじゅの廃止措置の実施状況について確認を行うために調査に行くということでございます。

日程関係は以上でございます。

次に、2点目といたしまして、本日ございました報道について、事実関係を申し上げたいと存じます。

本日の朝でございますが、原発事故の拠点病院の整備に関する報道がございました。その中で、その報道によればですけれども、規制庁は診療報酬の加算ができないか、今後、厚生労働省に検討を働きかける方針だとの記述がございました。

そうした記述がございましたけれども、そのような事実はございません。4月にも同様の報道がございまして、その際にも申し上げたとおりでございますが、原子力規制委員会・規制庁として、そうした方針を持っているという事実はございませんので、その点、明確化をさせていただきたいと存じます。

私からの御説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属と名前をおっしゃってから質問の方をお願いいたします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。ドイツさん。

○記者 電気新聞のドイツです。

委員の現地調査の田中委員のふげん及びもんじゅの現地調査の件で、更田委員長も月内をめどということで、もんじゅを訪れる御予定と伺っていますけれども、この委員長の現地を訪れるのと田中委員の現地調査と何か関係があるのでしょうか。

○大熊総務課長 それは別でございます。今御質問があったように、また、更田委員長も申し上げたとおり、これとは別に委員長が現地を訪問して、もんじゅについて視察をするとともに地元関係者と意見交換を行うということで、日程等を調整しているところでございます。こちらの田中委員の視察は、それとは別に廃止の実施状況を調査するというので、ふげん及びもんじゅについて現地確認を行うということで設定しているものでございまして、これは別の、場所としては同じでございますが、別の調査ということになります。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほか、ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。お疲れさまでした。

—了—